

園のおたより



第 7 号

令和 5 年 1 0 月

埼玉大学教育学部附属幼稚園

ダンス

園長 関 由紀子

運動会では1組、2組、3組の素晴らしいダンスが披露されました。1組さんではかなり前からステージが作られ、様々な曲とダンスを楽しんでいました。私の勝手なランク付けによると、二番人気曲が「バナナくんたいそう」（一番はおそらく「ようちえんのうた」）で、園児たちはマイクを持って歌ったり、先生と踊ったり、とても楽しそうでした。2組さんの「ココ☆ナツ」は、あっという間にみんなが歌とダンスをマスターし、アップテンポの曲をみんなで合わせて元気いっぱい飛び跳ねました。3組さんは、まさかのTaylor Swiftの「Shake It Off」！みんなとても楽しそうに踊るので、私も自然とからだがムズムズし、一緒に踊り出したくなりました（「ココ☆ナツ」と「Shake It Off」は難しく、なんとかついていけたのが「バナナくんたいそう」でしたが）。

実は、私はダンスを披露することが大嫌いです。思い起こせば小学生の時から、運動会用のダンスの練習で、先生からいろいろ注意されていたような気がします。中学では、私は真剣に踊っているのですが、「やる気がないのか」と言われ、高校の体育では女子はダンス、男子は武道だったため、女子は男子の前でダンスを発表するという悲劇に見舞われました。人前で絶対ダンスなんか踊らない！と誓ったのですが、なんと大学に就職してからも、学生からAKB48のダンスを教員のオムニバスで動画撮影すると迫られ、一生ダンスがつきまとうのかと愕然としました。どうやら私の動きは少し変だそうで、娘が高校時代にダンスの練習に渋々付き合ったとき、夫と娘から「ロボット」のようだと言われました。こんな私が園児と一緒に踊ってしまうのは何故なのでしょう？

おそらく、踊っている園児みんなが嬉しそう楽しそうだからだと思います。ただ楽しいから踊る姿に誘われたのでしょう。バナナくんたいそうを1組さんの端っこで見様見真似で踊っていると、数人の園児が岸先生ではなく、私をじーっと見ていたことがありました。おそらく変な動きに誘われて目が離さなくなったのではと、「私を見ないで！」と思いましたが、みんながあまりに楽しそうなので、「まあ、いいか」とロボットダンスを披露してみました。今年の運動会のテーマは「みんながうれしかったのしい運動会」でした。運動会を苦手に思う子どもも少なくないのですが、3組さんの考えた“みんながうれしかったのしい”というテーマに私も救われたのだな、と感じました。3組の皆さん、ありがとう。来年はもっと上手に踊れるように頑張ります。



幼児期の「遊び」と「運動」について

運動会に向けて取り組む中で、また、運動会をきっかけしたその後の遊びの中で、いろいろな体の動きを試す姿がありました。3組の遠足では、大学の大きな体育館で、大学の先生や学生さんと一緒にダイナミックな動きに挑戦したり、広いグラウンドを思いっきり走ったりしました。1組と2組の遠足では、それぞれ北浦和公園やグリーンセンターの大きな遊具を使って体を動かしました。どのクラスも、大きな木々や緑の中を気持ちよく歩くこともできました。

2012年に文部科学省から示された『幼児期運動指針』では、「幼児期に経験する基本的な動きの例」として、体のバランスをとる動き（立つ、座る、寝ころぶ、起きる、回る、転がる、渡る、ぶら下がる）、体を移動する動き（歩く、走る、はねる、跳ぶ、登る、下りる、這う、よける、すべる）、用具などを操作する動き（持つ、運ぶ、投げる、捕る、転がす、蹴る、積む、こぐ、掘る、押す、引く）の計28種類の動きが挙げられています。

本園では、2018～2019年に研究活動として、『幼児期運動指針』にある28種類の動きが、日常の幼稚園での「遊び」の中に含まれているのか、実際の遊ぶ姿を写真記録として整理しました。その結果、一年間の遊びを見てみると、ほぼ全ての動きが網羅されていることが分かりました。ただ、起伏や高低差が少ない園庭であるため、「登る」動きや「ぶら下がる」動きは、経験しにくい遊び環境であることも明らかになりました。雲梯や登り棒などいくつかの遊具は、この結果を受けて、さらに多様な動きを経験できるように新たに設置したものです。

『幼児期運動指針』では、「幼児にとっての遊びは、特定の運動（スポーツ）のみを続けるよりも、動きの多様性があり、運動を調整する力を身に付けやすくなる。幼児期には体を動かす遊びなどを通して多様な動きを十分経験しておくことが大切である。」とも書かれています。体の動きを調節することは、心の動きを調節することにも通じていると思います。例えば、自分からやってみようという意欲、諦めずにやってみようという持続力、周囲の友達に動きを合わせていく感覚など、体と心の動きは密接で、同時に育つものでしょう。本園ではこれまでも「遊び」を重視した保育を展開していますが、「運動」という面からも、この「遊び」を引き続き大切にしていきたいと考えています。

※『幼児期運動指針』は文部科学省のHPにも掲載されています。

(副園長)



1くみ

「居心地のよい場所」



最近好きな遊びをした後に学級みんなで過ごす時間を設けるようにしています。みんなで「バナナくんたいそう」をしたり、同じバナナの帽子を被って鬼遊びをしたりしています。一日を幼稚園で生活する中で、子供たち一人一人が何か一つでも自分の楽しみなことや、居心地良く感じる場を見つけて欲しいというこちらの思いがあります。

例えば、Aさんは登園して着替えが終わると、砂場に出かけるのが習慣のようになっていました。Aさんの両手には、いつもペットボトルでできたバケツがあり、たらいから水をザブンとすくうと、穴を掘った場所や、砂の山の頂上から思い切り水を流します。水が流れていく様子や、段々と「あわ」が溜まっていく様子を面白がって繰り返します。Aさんにとって砂場は、「こうしたらどうなるのかな?」「もっとやってみよう」ということが保障されている幼稚園での楽しみであり、居場所なのではないでしょうか。

自分の居場所は遊びとは限りません。周りの人の存在や、関わりがそれにあたる人もいるでしょう。ある日、Bさんは降園前、「もっと遊びたかった」という気持ちから、テラスの縁に座り込んでいました。テラスにはコブシの木の陰ができており、降園前の時間帯は風が吹くととても心地よいです。保育室からそんなBさんの後ろ姿を見たのか、Cさんがそっとやってきて、遊び着袋一つ分空けて隣に座りました。最近一緒に過ごすことが多かった二人が隣同士で、言葉を交わすわけでも、拒むわけでもなく、そっとそこにいる様子がなんだかとても素敵でした。一緒にいてくれる人がいることを知ったり、友達を心配したりして、思いが共にあるところに居心地の良い場所が生まれるのではないかと感じました。

2くみ

「秋の自然を楽しむ」

夏の暑さもようやく和らぎ、幼稚園でも秋の訪れを感じられるようになりました。2組のテラスを歩いていると、どこからか爽やかな匂いがしてきます。その匂いを辿って外に目を向けると満開のオシロイバナが咲いていました。そんな満開になったオシロイバナを使って、2組の花壇では色水を楽しんでいます。「水を使って遊ぶ」と聞くと夏を連想する方が多いと思いますが、子どもたちが普段目にする場所でようやく花が咲いたことで、子どもたちの“やってみたい”という気持ちから、この季節に色水を楽しむことができるようになりました。毎日、繰り返し遊んでいると、たくさん咲いている花の中から花卉が開いているものだけを使う人を見かけるようになりました。花を摘んでいる時に話を聞いてみると、「こういうやつの方がピンクになるんだよ」と嬉しそうに教えてくれました。オシロイバナは時間の変化によって花の開き方が変わり、子どもたちが遊び始めるころには花が閉じてしまうことがほとんどです。そのことに気付いたのか「着替え終わったら、お花採りに行くんだ」と急いで身支度を整えて外に出掛けていく人もいました。自分のイメージする色に近づけるために使う花や水の量を工夫して遊ぶ人、たくさんの花を潰していく中で色に変化していくことを面白がる人など、オシロイバナがたくさん咲いている今の時期だからこそ、自分のやってみたいように花を使ったり、試したりすることができ、自然をたくさん使って遊ぶことを楽しむことができました。

他にも、駐車場にある椿の種を拾ってコーヒー豆に見立てて使ったり、自分よりも高いところにあるカリンを採るためにビールケースや棒を使って試行錯誤したり、秋の自然に触れることを楽しんでいます。その季節にしか楽しめない自然を使って遊ぶことの面白さを2組のみんなと一緒に見つけながらこれからの季節も過ごしていきたいと思います



3くみ



「一つのチームのいろいろな人たちと過ごしたこと」

2学期のはじめから、同じチーム(6人)の友達と過ごす中で、自分の思いを伝えることや、友達の思いを知ることが繰り返してきました。6人が集まると、いろいろなことがぶつかり合うことも、アイデアがいくつにも合わさって、とびきりおもしろくなることもありました。ある日、チームでおもしろい遊びをつくろうと、アイデアを持ち寄りました。誰かの一言から次々とイメージが膨らみ、それぞれのチームの世界がつくられました。これまでの個々の遊びが、大いに生かされていました。折り紙を繰り返してきた人がいたら、折り紙で作ることをみんなと一緒にしたり、チームで遊んできた人がいたら、役割を決めながらチームで動いて細やかなチームプレイがあったり、作ることが好きな人はいろいろな素材を知っていたり、身体を動かすことが好きな人がいれば、いろいろな身体の動きを試したり考えたり…。

それを運動会で、してみることにしました。イメージを形にする時に、相手の思いをじっくり聴く人、それぞれの人の思いを知って、自分には言わない人、思いをたくさん伝える人、主張のぶつかり合いがあると「まあまあ」と平らにしようとした提案をする人や、困る人、うまく伝わらずにもやもやする人もいました。友達から湧き出るアイデアがおもしろいと喜ぶ人もいました。また、「それは嫌」「こっちじゃないと嫌だ」と言い合いをする人もありました。お隣のチームは大笑いしていて楽しそうなのに、自分のチームは嫌だ、嫌だ、ばかり言っているので困る人もいました。お互いに聴き合って丁寧に進めるチームも、もっとおもしろくしたいと、繰り返しイメージを語り合うチームもありました。これは小さい組の友達は難しいかどうかと、1組さん2組さんに試してもらいに何度も出かけたりもしました。

友達の思いをよく聴いてみると、知らなかった世界が広がって自分や自分たちの世界がさらに豊かになることに気付く機会にもなったと思います。喜びの感情をたっぷり味わった運動会までの間に、みんなで思い切り楽しむ姿、一緒に最後までやろうとする姿が生まれました。自分たちの遊びを大切にしようとする思いから、責任感も加わったようでした。